

〔学術論文〕

## 笠地蔵の教材価値に関する比較研究 －原話と再話に関する比較研究試論－

山 本 将 士

**要旨** 本稿の目的は、笠地蔵の教材価値の再発見、笠地蔵の変容過程に関する調査研究、絵本として再話された作品分析である。

比較研究の結果、民話「笠地蔵」絵本は、本来「貧乏な爺が満足な正月を迎えたいという願望を叶えるために町へ買い物に行く。しかし町へ行く途中に、地蔵が雪を被っているのを見つけて、爺が2人でこしらえた売り物の笠を地蔵にかぶせるが、笠が1つ足りないの、自分の笠（手ぬぐい、ふんどし）を地蔵に被せてあげる。爺が家に帰って、何も持っていない理由を説明すると、婆も一緒に喜んでくれるが、大晦日に食べものが何もないために、そのまま2人とも寝てしまう。夜中に地蔵が賽物、金銀、米、餅を運んで来てくれる。翌朝外を見ると、地蔵が立ち去る後姿が確認できた。そして、爺婆は良い正月を迎えることができた。」が、理想の物語であることを示すことができた。また、上述した条件に、最も近似する笠地蔵の採話が、『日本昔話名彙』（柳田國男、1951）であった。

さらに、これまでに出版された58冊の絵本を評価した結果、（稲田・梅田、1978）『かさこじぞう』（瀬田・赤羽、1966）『かさじぞう』の2冊を優れた民話絵本であることを示すことができた。

**キーワード**：笠地蔵、かさこじぞう、国語、教材、民話

### I. 目的と方法

近年、様々な姿形を変えて、私たちの手元に現れる民話は、本来の姿から変容した形になっていることが少なくない。そこで、本稿の目的は、笠地蔵の教材価値の再発見（原話に触れてその心を読み取る）、笠地蔵の変容過程に関する調査研究（教科書教材化過程における民話の心の変容を明らかにする）、絵本として再話された作品分析（優れた再話作品を発掘し評価する）である。方法は、始めに採集された笠地蔵資料を基に、笠地蔵の型を整理し、原話を確認する。次に、その原話と教科書教材を比較することで、現在使われている教科書教材の評価をする。最後に、絵本化された笠地蔵を分析し評価することである。

### II. 原話のルーツとその内容

#### 1. 笠地蔵の成立時期

笠地藏は、九州から青森まで分布しており（関敬吾，1987），類話も含めると百話近くも傳承されている（福田隆義，1988），日本を代表する民話の一つである。（土橋里木，1935a）によれば，一般に笠地藏の昔話は，「善良な爺が，雪の中に立っている地藏様に笠を被せてあげて帰宅すると，その夜地藏様が米俵，財寶などを爺の家へ持って来て恩報しをする」と語られているものが，全国的に最もよく普及した極めて普通な形であるという。

笠地藏の原型の成立時期と内容はまだ明らかになっていないが，先行研究により笠地藏の型の整理が『日本昔話集成』（関敬吾，1953），『日本昔話大成』（関敬吾，1987）や『福岡教育大学・国語国文学会誌 21』（福山孝美，1979）によってなされている。型の整理（関敬吾，1953・1987），「①貧乏爺が正月の買物に行くと地藏が雪（雨）にぬれている。② a 買物の金で笠を買ってかぶせる。b 家に連れ帰る。③ a 婆も喜び食うものはなく寝る。b 婆は怒る。④ a 夜中に地藏が宝物，金銀，米，餅を運んでくる。b 地藏の鼻，腹から米が出る。⑤爺婆は良い正月を迎える。⑥ a 婆が米をたくさん出そうとして鼻をつついて失敗する。b 隣の爺がまねて失敗する。」，型の整理（福山孝美，1979），「①独立型（登場人物が夫婦一組。夫が主たる行為者。妻は夫の行為に賛成する。），長者型（地藏から宝を得て裕福になる。），地藏来訪型（大晦日に地藏が来訪する。）の組み合わせ（全国的分布），②隣の爺型・対立型（隣の爺がまねをして失敗する。），地藏来訪型の組み合わせ（東日本中心），③女房欲心型・対立型（妻が夫の行為を批判し，対立する。），地藏招待型（地藏を家につれ帰る。）の組み合わせ（西日本中心）。また，原型の成立時期は「今昔物語集」以降「狂言」以前と推定され（福田隆義，1983），中でも鎌倉時代が色濃いと考えられている（駒井美恵子，1984）。

## 2. 笠地藏採話の整理

さて，再話と比較研究をする対象は原型が明らかになっていないため，これまでに収集された物語を集めた採話集や昔話の研究に収録された笠地藏，主に日本昔話資料集目録（稲田浩二・稲田和子，2001）を中心に，25冊（資料1）に掲載された採話を比較対照とする。ただし，（稲田浩二・稲田和子，2001）によれば，『日本昔話通観』（稲田浩二）は，地方別に編集された『通観』の，日本民族の資料篇2～27のうち，特に第二次世界大戦後採集の進んだ南西諸島の資料を積極的に加えてタイプ認定しているため，この地域の傳承は本土と異なる面が多く，本来独立した傳承圏として本土と区別することが適切であるという指摘からも，本稿の参考文献から除外したことは特筆すべき点である。

（土橋里木，1935a・1935b）は，（資料1）のNO1，NO2の中で，笠地藏を次のように指摘している。

- ①福運を得るに到つた理由であるが，殆ど全部一致して，雪か雨（夕立）に打たれてゐる道端の地藏様に笠を被せてあげたとなつてゐる。しかし，他の節で年の暮に夕立があるのは變で

あるという指摘があり、天候は雪か雨が妥当であると考えられる。

②多くの笠地蔵に於いて、地蔵の恩恵は、地蔵が爺の家まで歩いて来たと云い、櫓できたり、車へつけて来たなどと云ふ。

③笠地蔵の人数は、區々で、或は三人と云ひ、六人と云ひ、遂にはそれさへも忘れられて、幾人もの地蔵様が立ってゐたなどと語り、従つて返禮に来る地蔵様の人数もその通りで一定せぬ。

④欲深爺婆の出現は、柳田先生の御説の通り、善惡封象の法であつて、善事をより鮮明に印象づけんが爲と、多生の滑稽味を伴はせんが爲に、後世附加された一手段に他ならぬ。

⑤雨雪をしのぐ爲には又、笠とした方がより適當であろう。また、『日本昔話百選』（稲田浩二・稲田和子）によると、地蔵に代わって正月様が登場する地方もあったり、後半の展開では、地蔵の鼻穴から米が出たり、欲張り婆が失敗したりして、笑話の装いをしてきている地方（西日本）も多いという。幼な子の笑いをさそうためであると考えられている。

次に、(資料1)のNO3～NO23を関敬吾が整理した型に整理した。しかし、否応にも分類できないものいくつか挙がったため、私自身が整理しやすいように項目をいくつか増加した。①は、爺が地蔵に出会う時間について増加した。その理由は、少し異なった視点からではあるが、(中村一基, 1988)は実に正鵠をうがった指摘をしている。中村によれば、町へ行く途中に地蔵に出会う場合、売れる可能性を残している物の価値は高いが、町からの帰りに地蔵に出会う場合、売れなかった物の価値は無の自覚と表現している。また、爺の地蔵信仰心の度合いも、町へ行く途中よりも帰りの方が弱いのである。中村が指摘するように、①の増加は、爺のパーソナリティの理解や文献整理をする上で必要と考えられる。②は、笠の入手方法について増加した。主に笠の入手方法は3タイプに整理できる。A. 正月の買い物のお金で笠を手に入れる。B. 爺婆がこしらえた物を売ったお金で、笠を手に入れる。C. 爺婆がこしらえることで、笠を手に入れる。また、入手手段とともに、町へ行く目的も変化してくる。例えばAの場合、町へ行く目的が正月の買い物から地蔵に被せるための笠の買い物に変化している。さらに、関の型には含まれない、Cの入手方法が最も多い(資料2参照)こともあり、増加させる必要がある。③のAの増加は、本来、(土橋里木, 1935a)の中で、大晦日に神に供へ、且つ自分らの口にすべき飯なり餅なりがなければ年が越せない、つまり正月の歳神様を迎える事が出来ないと云ふ信仰は古くから行はれてゐるので、各地の昔話からばかりでもこの例は限りなく拾いだせるという指摘からも、食うものは無く寝るか湯や漬物などを口にして寝るかでは、貧乏でも年が越せるか越せないかの違いがあり、触れて置かなければならないだろう。しかし、③の型で関敬吾が重要視している問題点は、型の整理(福山孝美, 1979)のように、独立型か女房欲心型・対立型であると考えられる。結果、本稿でも大晦日に口にするものの有無の問題は、Aに加筆した程度に抑え、関が整理した型を余り変容させないように留めた。関敬吾が整理した型は大きく6つに大別できるが、さらに「賽物、金銀、米、餅などを運んでくる地蔵を、爺婆が出迎える型」として⑦を増加した。⑦の増加は、地

蔵信仰と身近な仏様である地蔵の親しみの程度、また民話特有の神秘性や面白さを表現するのに非常に重要であると考えられるため増加した。主に3つのタイプ、A. 声や歌のみの接触、B. 直接対面接触、C. 後姿のみの接触に整理できる。

傾斜体は増加した項目である。

本論文によって整理した型

①A. 貧乏爺が正月に買い物に行く途中地蔵が雪（雨）に濡れている。

B. 貧乏爺が正月に買い物に行った帰りに地蔵が雪（雨）に濡れている。

C. その他

②A. 買い物の金で笠を買ってかぶせる。B. 爺と婆でこしらえた物（炭俵、柴、縄）を売ったお金で買った笠をかぶせる。C. 爺と婆でこしらえた売り物の笠をかぶせる。D. その他

③A. 婆も喜び食うものはなく寝るか湯や漬物などを口にして寝る。B. 婆は怒る。

C. その他

④A. 夜中に地蔵が賽物、金銀、米、餅を運んでくる。B. 地蔵の鼻腹などから米が出る。

C. その他

⑤A. 爺婆は良い正月を迎える。B. 元の暮らしのままである。C. その他

⑥A. 婆が米をたくさん出そうとして鼻をついて失敗する。B. 隣の爺がまねて失敗する。

⑦A. 地蔵の声や歌が確認できたが地蔵に会うことはできなかった。B. 地蔵と直接コミュニケーションすることで、御礼をいただいた。C. 地蔵が立ち去る後姿しか確認できなかった。

（資料1）のNO3~NO23を本論文によって整理した型（上述した①~⑦）に整理した結果が、（資料2）である。NOは、（資料1）を参照してほしい。

### 3. 私の採用した原話

以上から、笠地蔵の原話の型は、①貧乏爺が正月に買い物に行く途中地蔵が雪（雨）に濡れている。②爺と婆でこしらえた売り物の笠をかぶせる。③婆も喜び食うものはなく寝る。④夜中に地蔵が賽物、金銀、米、餅を運んでくる。⑤爺婆は良い正月を迎える。⑥地蔵が立ち去る後姿が確認できた、の6つに一致する物語であろうと考えられる。そして、これらの条件に近似する笠地蔵の採話を（資料1）の中から検討し（資料2）に整理した結果、『日本昔話名彙』（柳田國男監修、日本放送協会編、1951）に収録されている話であった。そこで本稿では、この話を原話とする。

貧しい爺婆があった。間もなく正月が来るのに餅を買うお金がないので、二人で笠を作って或雪の日に爺が町へ売りに出た。途中までゆくと道端に地蔵様が十二体、頭から雪をかぶって寒そうに立っておられた。あまり気の毒なので順に持っていた笠を被せてあげると一つ足りなかった。しかし何とも一番しまいの地蔵様が気の毒なので自分の被っていた笠をぬいで

被らせて帰って来た。婆さんが出迎えて餅はと聞くから、地蔵様のことを話すと、婆は「それは良い事をした」と一緒に喜び、それでは火でも燃やしてあたって寝ようと、やがて床についた。翌朝、外の掛声に目を覚まして雨戸をあけてみると、軒下に搗きたての餅がたくさん置いてあるので、驚いて向うを見ると、笠を被った十二体の地蔵様が、爺の笠を被った地蔵様を先頭にして帰っていかれるところであった。

－福島県石城郡－

ただし、語り手によって語り方は様々であり、語られた地域や時代によっても語り方は様々である。例えば、語り始め（むがしアあったじゃおんなア、青森県、むかしあったずもな、岩手県、とんとむかし、山形県、まずむかしがったとさ、新潟県、むかしあったんやってなあ、岐阜県、なんとむかしがあったげな、岡山県、とんとむかしあったいいますらい、愛媛県、むかしかなりじゃ、宮崎県、ちょーんとむかしやったとこいが、鹿児島県）や語り納め（どっとはらい、青森県、とっぴんぱらりのふう、秋田県、とーびんと、山形県、いちがさかえもうした、福島県、いちごぶらーんとさがったてが、新潟県、しゃみしゃっきり、岐阜県、むかしこっぷり、岡山県、そうらえばくばく、香川県、もうすこんこん米んだんご、大分県、そしこんむかし、鹿児島県）などの語りの形式（日本民話の会、1991）が各地で変化にとんでいることは、その一例である。ここで示した原話は、「伝承笠地蔵の原型」として捉えるべきであり、これに笠地蔵が生まれた地域性や時代性や文化などを加えた物語が、本来の伝承笠地蔵の原話ではないだろうか。この伝承笠地蔵の原型にみられる「民話の心」は、貧しい爺婆が、今年こそ満足な正月を迎えたいと願いつつも、苦しい現実を目の前にしてもなお、自己犠牲を苦に思わない爺婆の姿（餅を買う金を稼ぐため、町へ笠を売りに行く途中、地蔵様を見つけその場で町へも行かず売物の笠を地蔵様に被せてあげる。それを聞いた婆は、「それは良い事をした」と一緒に喜ぶ）、そういった同じような境遇とパーソナリティを持つ人々が、新しい年への希望、少しでも豊かな生活を迎えたいという願望を民話の世界に託すことで、貧しさや苦しさを耐えると同時に、人間のやさしさやいたわりなどの、他者への思いやる気持ちを獲得することができたのではないだろうか。そして、その願望が叶い、満足な正月を迎えることができる。こういったことが、伝承笠地蔵の原型にみられる「民話の心」である。

### Ⅲ. 教科書教材の整理

#### 1. 教科書としての「笠地蔵」

現在までに、笠地蔵は「かさこじぞう」として教科書に採用されてきた。『かさこじぞう』（岩崎京子再話）は、1977年を初めとし教科書掲載が開始されている。「かさこじぞう」の教科書への掲載状況は、（吉原英夫、2003）が参考になる。それによると、平成元年には教科書出版社5

社中（教育出版・東京書籍・光村図書・学校図書・大阪図書）5社が小学二年生の教科書に掲載している。この教科書掲載の基になった原話、『かさこじぞう』（岩崎京子再話・新井五郎画、ポプラ社刊）絵本と『笠地蔵』（瀬田貞二再話・赤羽末吉画、福音館刊）絵本を福田隆義はすでに比較検討している（福田隆義, 1983・1988）。ここで福田は、瀬田貞二再話を高く評価している。それは、言語形象だけではイメージになりにくい子どもたちに、視覚形象との支え合いによって、確かなイメージを造形させる方法、いわゆる本格的な絵であり、表情があり、子どものリアリティーに即したものであるからだとして述べている。また、共同体の中で生きた人間の素朴な真実、意識と行動の一致した人間関係などを描いた文学の名に値する説話文学であると主張している。反対に、岩崎京子再話については、あまりいい評価をしていない。例えば、瀬田貞二再話に比べ岩崎京子再話の分量は2倍近くあり、その増加した箇所を「無駄が多い、というより逆に矮小化している場面さえあるように思われる」と批判されていたり、説話の特性を生かした再話になっていないで小説的な傾斜をしている（河浦節子, 1985）ことや、民話を舞台背景として現代人がそこに登場し、かわされる会話も、現代人の発想に基づくものであり（福田隆義, 1983・1988）、民話性にかけるという点であまり評価できないこと（西平薫, 1994）などが言われている。また、1979年『じゅん刊・世界と日本（内部ニュース）』では、自民党議員石井一朝氏が、「かさこじぞう」の批判文を掲載している。批判文に関しては、『国語教科書攻撃と児童文学、日本児童文学者協会編, 1981』に委ねることにする。

しかし、『かさこじぞう』（岩崎京子）絵本が、前述したような評価をされても、今もなお教科書教材に形を変えて使われていることは、その価値が非常に優れたものであることではないだろうか。そこで、まずはじめに、『小学校学習指導要領解説国語編, 1999』や教科書教材を検討する。学習指導要領第3章第1節（1学年及び2学年）では、昔話の内容を、入門期の言語活動例として、「昔話や童話などの読み聞かせを聞いた後に、自分なりにいろいろと想像を働かせて自分の世界を広げていくものである」と挙げている。さらに、「絵や写真などを見て想像を膨らませながら読むこと」も児童の想像を広げるものとして必要であると述べている。その反面、「具体的なイメージを与えることで想像を限定してしまう可能性がある」ことや、「国語科の立場としては、絵や写真をあくまでも文字表現に対する情報補足として活用することが望ましい」という指摘や、教科書出版社4社（教育出版・東京書籍・学校図書・大阪図書）の教科書教材「かさこじぞう」における指導目標や指導ポイントの検討からも、教科書教材の必要な条件は、読み聞かせを聞いた後に、いろいろと想像できる文章であるために、その文章が、子どもに理解できる内容や表現になっていることが重要であると考えられる。そういった観点からみれば、『かさこじぞう』（岩崎京子再話）教科書は、瀬田の2倍の分量にすることで、子どもたちの想像性や内容理解の方向性への意識の統一化がしやすいことや、小説的、現代人の発想に基づくことで、子どもたち、特に小学校2年生の児童たちには、読みやすく分かりやすい内容になっているのではないだろうか。

また、「(読み方授業のための教材分析小学1・2年, 1983, 読みを深める授業分析全授業記録と考察小学2年, 1987, 授業のための全発問文学教材小学2年, 1990, 「かさこじぞう」の言語技術教育, 1997) 渋谷孝・市毛勝雄共編著, 明治図書出版」や「(文学教材の読み方指導, 「かさこじぞう」の授業, 1989年, 小美濃威, 桐書房)」などにより、『かさこじぞう』(岩崎京子)教科書は, 教材分析, 授業分析, 読解指導のための発問研究など, 学習者と授業者, 教材との関係に着目した研究が今日に至るまで着々と蓄積されている事をふまえると, 『かさこじぞう』(岩崎京子)教科書は, 時代とともにその価値が高くなっていると考えられる。

## 2. 教科書教材と原話の比較

次に『かさこじぞう』(岩崎京子)教科書と伝承笠地蔵の原型とを比較検討する。『かさこじぞう』(岩崎京子再話)は, 1977年掲載当初から1986年にかけて, 同じ筆者であるにもかかわらず, 各出版社の教材文の統一が図られていなかったが, 1986年以降ようやく, 各社の教材文の内容が統一されたのである。しかし, 各出版社によっては, 漢字やひらがなの違いや句読点箇所の違いはある

はじめに, 岩崎京子再話を本稿によって整理した型に分類する。その結果, ①貧乏爺が正月に買い物に行く帰りに地蔵が雪(雨)に濡れている。②爺と婆でこしらえた売り物の笠をかぶせる。③婆も喜び食うものはなく寝るか湯や漬物などを口にして寝る。④夜中に地蔵が賽物, 金銀, 米, 餅を運んでくる。⑤爺婆は良い正月を迎える。⑥地蔵が立ち去る後姿が確認できた, に分類できた。これは, 伝承笠地蔵の原型とほぼ同一であった。しかし, 伝承笠地蔵の原型に比べ, 『かさこじぞう』(岩崎京子再話)は, 福田隆義の指摘以上に文章の量が多かった。文章を増加させた理由は, 小学2年生の発達段階を加味しているためだと考えられる。読み聞かせを聞いた後に, 自分なりにいろいろと想像を働かせて自分の世界を広げていくためには, 文章が子どもに理解できる内容表現でなければならない。そうでなければ, 子どもたちが民話の面白さを味わったり, 一人で音読する事が困難になる。そういった視点から捉えなおせば, 福田隆義が『かさこじぞう』(岩崎京子再話)を批判した部分も, 反対に優良な作品であると捉えなおすことができるのではないだろうか。

## IV. 絵本として再話された作品分析

### 1. 絵本化された民話の評価基準

「民話の魅力とはいったいどのようなものか?」ということは, これまでの先行研究に委ねることにし, 優れた民話絵本を見出す上で, 最も重要になるものが, 絵本の評価基準である。しかし, 絵本の評価基準を明確にする上で最も困難なことは, 絵本を評価する視点をどの立場に置くべきかであろう。例えば, 絵本学会に所属する会員の職種は, 作家・画家はもとより, 美術館や

博物館の学芸員、絵本の編集者、様々な教育研究機関の研究者（幼児教育・美術教育・国語教育・デザイン・造形・イラストレーション・創作など）、民間の文庫や読書団体及び図書館司書や自治体の子育て支援に関わる人々などから構成されており、その様々な職種の立場の人々が共通理解の上で、統一した評価基準を明確にすることはまだまだ先の事であろう。

そこで本論文では、絵本日本賞や日本絵本賞を主催する全国学校図書館協議会の、図書選定基準や『絵本の研究』（阪本一郎，1977）、『昔話を絵本にすること』（松岡享子，1981）を手がかりに評価基準を設定する。

まず、全国学校図書館協議会の図書選定基準について整理していく。図書選定基準は、一般基準と部門別基準に分類されているため、一般基準については、ホームページ<sup>1</sup>を参照していただきたい。部門別基準、中でも絵本部門については、(1) 子どもに対する愛情に貫かれており、絵と文が芸術的に調和しているか。(2) 絵は内容を的確に表現しており、子どもの感覚に合って楽しいものになっているか。(3) 文章は、子どもに理解できる内容や表現になっているか。(4) 用紙・装てい・判型などは、内容にふさわしく作品を十分に生かしているか、などと評価基準を4つの尺度分けて設定している。続いて、「絵本の研究」について整理していく。(阪本一郎，1977)は、『絵本の研究』の中で、絵本の内容を(1) 物語の文章（主題、構想、性格描写、叙述）、(2) 物語の絵画（描画）、(3) 印刷・造本の3つに分類し、各項についての評価尺度を設けている。その中の1項目、描画の評価尺度について記述する。描画の評価尺度は、①美感性（画風や色彩、物語のムードによく調和していて、子どもの美的感覚を育てるように描かれているか）、②同調性（物語と絵とは同じ歩調で展開していて、一方が早く現れたり、遅く現れたりするようなことはないか）、③想像性（絵は子どもが理解できるとともに動的で、想像の余地を残しており、物語と絵とがべったり密着していないか）、④写実性（絵のデッサンは、子どもが見慣れている視覚で写実的に描かれていて、過度な変型がなされていないか）、⑤人物性（同じような人物が登場する場合、その個性を表現するためのくふうがなくて、人物の区別が紛らわしくないか）、⑥刺激性（絵は、子どもの健全な共感を誘うように描写されており、不健全な刺激のどぎつい場面はないか、等の尺度から構成されている。以上の結果から評価基準項目は、主に四つに分類（①物語の文章、②物語の絵、③物語の文章と絵の調和、④印刷・造本）とすることができるだろう。

ただ、昔話を絵本にすることは、一般的な絵本と違って注意しなければいけない点がいくつも挙げられる。例えば、松岡享一は、『昔話を絵本にすること』の中で、昔話絵本が昔話から奪うものとして四つの点を挙げている。具体的に昔話絵本が昔話から奪うものの第一の点は、当事者から第三者に立場が入れ換えることがあるということである。分かりやすく言えば、本来昔話は、聞き手が話し手の話を聞きながら、頭の中で想像を広げイメージを膨らませながら、直接自分の目で見ると対し、絵本の視点は画家の視点、第三者の視点に置かれてしまうことである。第二の点は、視覚以外のイメージの後退が起きてしまうことである。視覚的なイメージ、つまり絵が、



前面に出てきてしまっ、音や温度、手ざわりといった他の感覚に訴えることがらが話の中に出てきても、それを自分でイメージすることができなくなってしまうことである。お話を聞いているときは、視覚以外の感覚が十分働いて、身体全体でお話を感じる事が自然にできるのに、目の前に絵がおかれると、視覚の感覚が他の感覚を圧倒してしまうのである。第三の点は、絵本には、時間的な流動性がなく画面という一点で止まってしまっていることである。一枚の絵は、あるものの、あるときの姿を平面的なものの上に固定させるという性質をもっているのである。第四の点は、画家のイメージと読者のイメージの食い違いが発生することである。ことばからは、受け手がめいめい独自のイメージを描くことができるが、絵本からは、画家のイメージを受け取ることになってしまうのである。そういったことをふまえ、松岡氏は、昔話を本にする形として、昔話の絵の働きと、絵の限界、絵が子どもに対して持っている意味をよくわきまえて、必要最小限の挿絵をつけた読みものの本に仕立てて、大人がそれを読んでやる、語ってやるというのが、昔話が子どもに与えられる際の一番望ましい形だと結論付けている。しかし、昔話は、どんどん絵本化されている今日、前述したような昔話絵本が昔話から奪うものや民話的特徴を、昔話の評価基準に加味することで、民話特有の評価基準ができるのではないだろうか。そういった松岡氏の視点や民話的特徴を加え、本稿では、笠地蔵絵本を評価する上で以下の項目を基準とし、優れた再話絵本を発掘していくことにする。

## 民話評価基準

### (1) 物語の文章

- ・本稿での伝承笠地蔵原型の内容と同一、又はほとんど一致しており、尾ひれをつけたり創作的になっていないものである。

### (2) 笠地蔵の民話的特徴

- ・貧しい老夫婦が、年越しの夜に満足な正月を迎えたいという願いを叶えるために、その願望を民話の世界にたくしている。
- ・昔話は口頭伝承されたものであり、語り口調である。
- ・主人公のパーソナリティ（共同体意識の中で育まれた人間のやさしさ）が表現されている。

### (3) 物語の絵

- ・絵にする場面とすべきでない場面が精選されている。
- ・絵の質
  - ▶ 美感性：画風や色彩、物語のムードによく調和していて、子どもの美的感覚を育てるように描かれている。
  - ▶ 想像性：絵は子どもが理解できるとともに動的で、想像の余地を残しており、物語と絵とがべったり密着していない。

- ▶ 写実性：絵のデッサンは、子どもが見慣れている視覚で写実的に描かれていて、過度な変型がなされていない。

#### (4) 物語の文章と絵の調和

- ・ 同調性：物語と絵とは同じ歩調で展開していて、一方が早く現れたり、遅く現れたりするようなことはない。
- ・ 一つの絵に文章が長すぎて、あるときの姿が固定されている時間が長くなっていない。

ところで、「民話」と「昔話」の用語の混同であるが、この議論については、『国語教科書攻撃と児童文学』（日本児童文学者協会、1981）に委ねることにするが、簡単に言えば民話とは、民衆の生活のなかから生まれ、民衆によって口承されてきた説話、伝説、昔話などを指す用語である。

## 2. 私の選んだ「笠地藏」

### (1) 評価

さて、上記の民話評価基準を使い（資料3）58冊の絵本を以下の手順で整理し評価していく。第一に、それぞれの絵本を読んで、文章の内容が伝承笠地藏原型の内容と同一、又はほとんど一致しており、尾ひれをつけたり創造的になっていないかどうかを検討し、続いて第一段階で精選された文章に、民話的特徴が含まれているかどうかを検討した。次に、物語の絵や物語の文章と絵の調和について順に評価していった。以上の方法によりそれぞれの絵本を検討した結果、第一段階で伝承笠地藏原型の内容と同一なものは発見できなかったが、ほとんど一致した絵本（瀬田貞二、1966）、（稲田和子、1978）を精選することができた。文章の内容の伝承笠地藏原型との相違点は、笠地藏の原話の型①、⑥の部分が原型と一致していなかったのである。もう少し詳細に説明すると、①の部分では本来「貧乏爺が正月に買い物に行く途中に地藏が雪（雨）に濡れているのを発見して、町にも行かず売り物の笠をかぶせる」という内容であったが、本論文で精選した絵本（瀬田貞二、1966）、（稲田和子、1978）の内容では、「貧乏爺が正月に買い物に行った帰りに、地藏が雪（雨）に濡れているのを発見して、売り物の笠をかぶせる」という内容であった。また、⑥の部分では「地藏が立ち去る後ろ姿しか確認できなかった」のはずが、「地藏の歌や声ができ、それに爺が応答する」という、地藏と爺婆とのコミュニケーションがあったことになる。以降評価方法の手順に従って検討した結果、本稿では下記の2冊を優れた民話絵本であると評価する。

- I. 稲田和子 文・梅田俊作 絵、かさこじぞう、1978、小学館、世界のメルヘン絵本
- II. 瀬田貞二 再話・赤羽末吉 絵、かさこじぞう、1966、福音館書店、《こどものとも》傑作集

### (2) 優れた民話絵本の考察

はじめに、『かさこじぞう』（稲田和子）について考察する。第一に、物語の文章であるが、

本稿の伝承笠地蔵原型の内容と同一なものではなかった。しかし、内容的にはほとんど一致しており、後述する『かさじぞう』(瀬田貞二)の絵本の内容とほとんど同一なものであった。また、他の絵本と比べても同一内容の物語として多い傾向であったため、適当に尾ひれをつけたり創作的になった文章ではないと考えられる。原型の内容との相違点は前述した通りの2点である。第二に、民話的特徴をどれだけ含んでいるかであるが、貧しい老夫婦が、年越しの夜に満足な正月を迎えたいという願いを叶えるために、その願望を民話の世界にたくしていることは確かである。文章も語り口調で表現されており、また物語の最後の絵を見ると、爺婆が幸せになって終わる物語のため、幸せや裕福に関連した絵で終わるのが一般的であるが、『かさじぞう』(稲田和子)では、裕福にもなったにもかかわらず、爺が一生懸命笠を編み、婆は幸せそうにお茶を運ぶ構図で終わっている。これは、爺婆の願望が実現してもそれにあえて甘んじることなく、生活スタイルをかえなくてこれからも努力をしていくという、主人公のパーソナリティがもろに表現されているものである。第三に、物語の絵であるが、例えば町に来た場面、町の賑わいが描かれており、町の奥を見るとあえて絵がぼかして描いている。また、地蔵様がどっさり置いていったものを爺と婆が見る場面、そこもあえてものを具体的に描かずぼかしている。そういった場面場面において想像の余地をのこした工夫がしてあり、物語と絵がべったり密着していないで、想像性をしっかり持った絵である。写実性においても、子どもが見慣れている視覚で写實的に描かれると思われ、過度な変形もなされていない。さらに物語のムードにもよく調和するように描かれているだろう。最後に、物語の文章と絵の調和だが、全部で11画面から構成されており、それらの画面すべてにおいて物語と絵が同じ歩調で展開している。

以降、(川端誠, 1990)を参考に論じる。本文の第一画面は、町へ向かう準備をしている場面、爺に笠を背負わせるため、婆が手伝っている。売り物の笠は、むしろの上においてあり、爺婆の気配りが感じ取れる。文も、爺の「ばあさまや、かさこ売ったらば、正月の米を買ってくるからな。」の中に、おじいさんの意気込みが感じられ、それに婆が頑張るんだぞと笑顔で送り出すような微笑ましい姿が絵で表現されていて、じつに良い。第二場面、町へ来た場面。爺が町の賑わいの部分からはずれ、町に対して背を向けた状態で、体を九の字にして悲しそうな表情で描かれている。爺の笠なんか誰からも見向きもされず孤立感が表現されている。第三場面、笠が売れず雪もこんこん降ってきたため、家の方へ引き返す場面。あまりの雪の強さに、爺の体はなかなか前に進めず、ここでも九の字に描かれており、吹雪の厳しさが伝わってくる。その中で、地蔵を発見し、爺が「おや、かわいそうに。なんぼか つめたいべ。」の言葉のなかに、爺のパーソナリティが感じられる。第四場面、爺が地蔵に笠を被せている場面。右手で雪を払いながら、左手で笠を被せている。また、笠を被せてもらった地蔵と、まだ被せてもらっていない地蔵との表情が違う。そうして、笠が一つ足りないため、「じぞうさま、じぞうさま、もったいねえけんども、おれの つぎのあたった ふんどしでも かぶってくださいや。」と言っ

て、自分のふんどしをはずして被せる。絵には描かれていないけれども、想像すると大変滑稽である。滑稽ではあるが、猛吹雪の中、爺は笠もふんどしもない状態で家路に着くとなると、自分の命も危ない。そういった中に民話のおもしろさがあり、爺のパーソナリティが表現されているだろう。第五場面。爺が全ての地蔵に被せ終わった地蔵の姿が描かれている。文章はないが、地蔵の表情が、地蔵の言葉や気分を私たちに想像させてくれる。第六場面、爺が家路について、ほっと一息をついて安堵な気分で焚き火にあたっている場面。婆は、爺が着ていた服を乾かせながら、一安心という表情をしている。ここでも、爺が何にも持たずに帰ってきた理由の中で、最後に「かんにんしてけろや。」という一言、それに「ほうか、えかった、えかった。なっぱづけでも出して、ゆっこ のんで ねるべ。おらたちは 家があるだけでも ありがてえわな。」と婆が答える。現実を考えると非常に厳しい状況なのにもかかわらず、婆のこういった答えは、なんとも気持ちのいい返事である。また、爺と婆のパーソナリティも非常によく表現されている。第七の場面、真夜中で床に就いた二人が、地蔵の歌に気づき耳を澄ましている場面。爺は布団の中に隠れながら、婆は聞こえやすいように膝立ちになって耳を澄ましている。いざという時には、爺よりも婆が冷静でいられる描写、また文章でも婆が「じいさま、おまえ、じぞうさまに ふんどし かぶせたのか。」と冷静に地蔵の歌を聞きながらも、いくつかの滑稽さが伺える。第八場面も第七場面の続き。地蔵の歌の返事に、二人で手をたたいて、「ここだよ ここだよ かさこ かぶせた じじいは ここだ」と知らせるところ、呼ばれたか単純に声だけでは心配で、二人で手を叩いてしらせたとところに、二人の必死さが感じられる。第九場面、ふんどしを被った地蔵を先頭に、二人の家に近づいてくる場面。先頭にふんどしを被った地蔵がいるところが滑稽である。また、地蔵の表情から、「あ、爺の家はあそこか！見つけた、見つけた」と言いいながら安心したように近づいてくることが想像できる。第十場面、夜が明けて地蔵が車で運んできたものを見る場面。文章では、「米だわら、ふとんにきもの、あること、あること、しおざけから みそにやさいまで、どっさり かさねて、おいてあるんだと。」具体的なものを書いているが、絵は、ほとんどぼかしてあり具体的に描かれていない。ここにも、子どもたちの想像の余地を残していると思われる。最後の第十一場面、爺と婆が裕福になり幸せに暮らしている構図、爺が一生懸命笠を編んでいる姿、ここにこそ他の絵本にはない爺のパーソナリティが表現されている。最後に、『かさこじぞう』（稲田和子）は随所に、爺が九の字に描かれ、その姿が、辛い、苦しい、きつい、怖いなどの表現がとても生き生きと表現されている。

次に、『かさじぞう』（瀬田貞二）絵本であるが、これは「かさじぞう」絵本の代表作品であり、(本稿4-1.教科書教材の整理)や(川端誠, 1990), 全国学校図書館協議会など、様々な人や機関から好評価を得ている作品である。本稿でも評価基準と比較検討した結果、優れた作品の1つとして捉えることができた。本稿評価方法に従って評価していくが、他でも様々な角度から論述さ

れている作品のため、本稿では、評価基準に沿っているものであるか、沿っていないものでないかと、単純に評価していく。内容の紹介や詳細な評価については、他の教材研究に委ねたい。はじめに、物語の文章は、前述した通り本稿の伝承笠地蔵原型の内容と同一なものではなかったが、内容的にはほとんど一致しており、後述する『かさこじぞう』（稲田和子）の絵本の内容とほとんど同一なものであった。また、他の絵本と比べても同一内容の物語として多い傾向であったため、適当に尾ひれをつけたり創作的になった文章ではないと考えられる。次に、民話的特徴をどれだけ含んでいるかであるが、貧しい老夫婦が、年越しの夜に満足な正月を迎えたいという願いを叶えるために、その願望を民話の世界にたくしていることは確かである。また、語り口調で書かれており主人公のパーソナリティもしっかりと読み取れる作品である。物語の絵は、本格的な絵であり美観性や写実性に関しても素晴らしいものであった。ただ残念なことに、想像性の観点からとらえると、『かさこじぞう』（稲田和子）に比べ、物語と絵とが密着しており、想像の余地を残す量がやや劣っているのではないだろうか。最後に物語の文章と絵の調和であるが、同じ歩調で展開しており、一方が早く現れたり、遅く現れたりするようなことはない。また文章が長すぎたり、あるときの姿が固定されている時間が長くなることはなく、爺、婆の行動・行為を中心に快適なテンポで展開しているであろう。

## VI. 考察

本稿の目的は、笠地蔵の教材価値の再発見と笠地蔵の変容過程に関する調査研究、絵本として再話作品を発掘し評価することであった。1つの採話『日本昔話名彙』（柳田國男、1951）を伝承笠地蔵の原型に位置づけることができたことは、近年様々な姿形を変えて私たちの手元に現れる「伝承民話笠地蔵」の、本来の姿と変容した姿を比較できると共に、絵本化や教材化していく上で、その基にする原話を選ぶという根幹に一石を投じたと考えられる。また、教科書教材である「かさこじぞう」（岩崎京子）や多くの絵本を分析していく上で、本稿は非常に有用なものであると考えられる。

民話「笠地蔵」絵本は、本来「貧乏な爺が満足な正月を迎えたいという願望を叶えるために町へ買い物に行く。しかし町へ行く途中に、地蔵が雪を被っているのを見つけて、爺が2人でこしらえた売り物の笠を地蔵にかぶせる。しかし、笠が1つ足りないので、自分の笠（手ぬぐい、ふんどし）を地蔵に被せてあげる。爺が家に帰って、何も持っていない理由を説明すると、婆も一緒に喜んでくれるが、大晦日に食べものが何もないために、そのまま2人とも寝てしまう。夜中に地蔵が糞物、金銀、米、餅を運んで来てくれる。翌朝外を見ると、地蔵が立ち去る後姿が確認できた。そして、爺婆は良い正月を迎えることができた。」が、本稿で整理した結果、理想の物語であると考えられる。そういった物語の中での、爺婆のやりとりや爺の起こす行動、現実的には起こりえないような地蔵の行動や表情が、民話「笠地蔵」の見所や滑稽さを感じさせてくれる。

そして物語の最後にはハッピーエンドで幕を閉じる、何とも歯切れの良い物語ではないだろうか。

今年（2008年）の新学期（9月）からは、モンゴルの小学校4年の国語（モンゴル語）の国定教科書に、日本の昔話「笠地蔵」が「かさじぞう」として登場してくる。日本の民話が、モンゴルの子どもたちへとその範囲を広げつつあり、民話の今日的意味も重要な課題となってくる。民話の今日的意味は、過去の共同体意識のなかで、生きた人間にはあった、失ってはならない人間性・人間的真實を今日に媒介することにある（福田隆義，1983）。そのことによって、今日をよりまっとうに生きる指針を、子どもたちの内側に掘りおこすことにある。そういった意味においても、子どもの発達段階からみて適切な判断をして、優れた民話絵本や教科書を評価し選ばなければ、民話の今日的意味を失ってしまうであろう。そういった今日的意味を失わないためにも、1つ1つの民話を丁寧に分析することが今後必要であろう。

#### 脚注

1. 全国学校図書館協議会図書選定基準「<http://www.j-sla.or.jp/shiryo/gaku5.html>」

#### 引用文献

- 稲垣浩二・稲田和子 1971 日本昔話百選 三省堂.
- 稲田浩二・稲田和子 2001 昔話ハンドブック 三省堂.
- 河浦節子 1985 小学校低学年の文学教育『かさじぞう』を中心に 文学と教育, 131, pp60 - 62.
- 川端誠 1990 「赤羽末吉」の『かさじぞう』わが絵本ベスト・ワン Pee Boo ブックローン出版 pp34 - 39.
- 駒井美恵子 1984 民話「かさじぞう」の文学的考察 文学と教育, 128, pp52 - 55.
- 阪本一郎 1977 絵本の研究 日本文化科学社.
- 関敬吾 1953 日本昔話集成 角川書店.
- 関敬吾 1987 日本昔話大成 5 本格昔話四 角川書店.
- 土橋里木 1935a 昔話研究第三號 三元社.
- 土橋里木 1935b 昔話研究第五號 三元社.
- 中村一基 1988 民話「笠地蔵」の〔構成要素〕〔変容過程〕考 - 岩手の伝承を中心に 岩手大学教育学部付属教育工学センター教育工学研究, 10, pp55 - 62.
- 西平薫 1994 小学校低学年読む楽しさを保障する国語教育としての文学教育 - 絵本「かさじぞう」を中心に 文学と教育, 166, pp26 - 31.
- 日本児童文学者協会 1981 国語教科書攻撃と児童文学 p77.
- 日本民話の会 1991 ガイドブック日本の民話 国土社.
- 福田隆義 1988 民話の教材化 - 絵本としての『かさじぞう』 文学と教育, 145, pp28 - 37.

福田隆義 1983 文学史の中の児童文学『かさじぞう』 文学と教育, 123, pp64 - 70.

松岡享子 1981 昔話を絵本にすること－ホフマンの『七羽のからす』をめぐる 東京子ども図書館.

柳田国男 1951 日本昔話名彙 日本放送出版協会

吉原英夫 2003 『かさじぞう』のテキストと教材文について 北海道教育大学語学文学会 / 北海道教育大学, 41, pp23 - 31.

資料 1 採話参考文献

原 話 ・ 採 話					
NO	編著者	書名(誌名)	出版年	発 行	分 類
1	土橋里木	昔話研究第四号	1935	三元社	採話研究
2	土橋里木	昔話研究第五号	1935	三元社	採話研究
3	岩倉市郎	柳田国男編全国昔話記録南浦原郡昔話集	1943	三省堂	採話
4	武田明	柳田国男編全国昔話記録岐佐柳志々島昔話集	1943	三省堂	採話
5	鈴木棠三	柳田国男編全国昔話記録佐渡島昔話集	1944	三省堂	採話
6	柳田国男	日本昔話名彙	1951	日本放送出版協会	採話
7	関敬吾	日本昔話集成	1953	角川書店	採話研究
8	稲田浩二・稲田和子	日本昔話百選	1971	三省堂	採話
9	岩崎義則	全国昔話資料集成 1 羽前小国昔話集山形	1974	岩崎美術社	採話
10	武田明	全国昔話資料集成 9 西讃岐地方昔話香川	1975	岩崎美術社	採話
11	上野勇	全国昔話資料集成 1 3 利根昔話集群馬	1975	岩崎美術社	採話
12	土橋里木	全国昔話資料集成 1 6 甲州昔話集山梨	1975	岩崎美術社	採話
13	鈴木棠三	全国昔話資料集成 2 0 武蔵川越昔話集埼玉	1975	岩崎美術社	採話
14	大橋和華	全国昔話資料集成 2 5 恵那昔話集岐阜	1977	岩崎美術社	採話
15	谷垣桂蔵	全国昔話資料集成 2 7 但馬昔話集兵庫	1978	岩崎美術社	採話
16	鈴木暹	全国昔話資料集成 3 0 伊豆昔話集静岡	1979	岩崎美術社	採話
17	梶谷明	全国昔話資料集成 3 1 吾妻昔話集群馬	1979	岩崎美術社	採話
18	谷原博信・武田明	全国昔話資料集成 3 2 東讃岐昔話集香川	1979	岩崎美術社	採話
19	田中澄一	全国昔話資料集成 3 3 奥出雲昔話集島根	1980	岩崎美術社	採話
20	山本明	全国昔話資料集成 3 4 陸前伊具昔話集宮城	1981	岩崎美術社	採話
21	小島環禮	全国昔話資料集成 3 5 武相昔話集神奈川	1981	岩崎美術社	採話
22	浅川欽一	全国昔話資料集成 4 0 奥信濃昔話集長野	1984	岩崎美術社	採話
23	柳田国男	日本昔話 笠地蔵	1983	新潮文庫	採話
24	関敬吾	日本昔話大成 5 本格昔話四	1987	角川書店	採話研究
25	山村民俗の会	山ことばと炉端話 - 山の伝説・昔話とことばの民俗 -	1991	エンタプライズ	採話研究
26	日本民話の会	12月のおはなし かさじぞう 監修 - 吉沢和夫	1991	国土社	採話

## 資料2 採話の型

NO	地方	都道府県	ベース	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	地蔵の数
3	信越	新潟	同じ	A	B	A	A	A	×	A	6
4	四国	香川	同じ	A	B	B	A	A	×	D	6
5	信越	新潟	同じ	A	B	A	C	C	×	D	6
6	東北	福島	同じ	A	C	A	A	A	×	C	12
7	東北	岩手	同じ	B	D	A	A	A	×	C	6
8	不明	不明	同じ	A	B	A	A	A	×	C	6
9	東北	山形	同じ	B	C	A	A	A	×	C	6
10	四国	香川	同じ	A	D	A	A	A	×	A	1
10	四国	香川	同じ	B	C	C	A	A	×	B	5
11	関東	群馬	同じ	A	A	A	A	A	×	C	6
11	関東	群馬	一部違う	B	D	C	C	A	×	B	1
12	関東	山梨	同じ	A	A	B	B	B	A	D	6
13	関東	埼玉	違う	C	D	C	B	A	×	D	3
13	関東	埼玉	同じ	A	C	A	A	A	×	C	不明
13	関東	埼玉	一部違う	A	D	B	A	A	×	B	不明
13	関東	埼玉	同じ	A	C	A	A	A	×	B	6
14	東海	岐阜	同じ	A	A	A	A	A	×	A	不明
15	近畿	兵庫	同じ	B	C	A	A	A	×	C	6
16	東海	静岡	同じ	B	C	A	A	A	×	B	6
16	東海	静岡	同じ	A	C	C	A	A	×	C	12
17	関東	群馬	同じ	B	D	C	A	A	×	A	不明
18	四国	香川	同じ	B	D	A	A	A	×	C	6
19	中国	島根	一部違う	A	C	C	B	C	×	D	6
20	九州	宮崎	同じ	B	C	C	A	A	×	C	5
21	関東	神奈川	違う	×	×	C	A	A	×	C	不明
22	信越	長野	同じ	B	D	C	A	A	×	B	不明
23	東北	岩手	同じ	B	D	A	A	A	×	C	6



笠地蔵の教材価値に関する比較研究

資料3 再読参考文献

NO	著者名(文)	著者名(絵)	書名(誌名)	出版年	出版社	叢書名前
1	関 敬吾	福田 豊四郎	笠地蔵	1946	日本美術出版	
2	関 敬吾	藤沢 龍雄	かさじぞうさま	1952	大日本雄弁会講談社	講談社の一年生文庫
3	瀬田 貞二	赤羽 未吉	かさじぞう	1966	福音館書店	こどものとも傑作集
4	いわさき きょうこ	あらい ごろう	かさこじぞう	1967	ポプラ社	むかしむかし絵本
5	高田 敏子	遠藤 てるよ	かさじぞう	1968	日本長期信用銀行	青い鳥絵本
6	民話の研究会(編)		日本の民話	1975	世界文化社	
7	西本 鶏介 監修・関敬吾	黒崎 義介	かさじぞうさま	1975	フレーベル館	
8	愛知企画センター(企画)		笠地蔵	1976	二見書房	まんが日本昔話日本昔ばなし
9	愛知企画センター(編)		笠じぞう	1976	ばんそう	ばんそうポケット・ミニ
10	筒井 敬介	安野 光雄	かさじぞう	1976	小学館	ビクシー絵本 第6集
11	平井 芳夫	寺尾 知文	かさ地ぞう 地ぞうのはなし	1977	集英社	母と子の日本の民話 19
12	稲田 和子	梅田 俊作	かさこじぞう	1978	小学館	世界のメルヘン絵本
13	小田 林	松尾 万理	かさじぞう	1979	ぎんのすず	ベルブック
14	神戸 淳吉	映像写真	かさじぞう	1980	学習研究社	母と子の日本むかし話 3
15	須知 徳平	石倉 欣二	にほんのはなし かさ じぞう	1980	コーキ出版	絵本ファンタジア
16	吉沢 和夫	遠藤 てるよ	かさじぞう(新潟県)	1981	第一法規出版	日本の民話絵本 6
17	愛知企画センター(企画) 国際情報社編集部(編集)		笠地蔵	1982	国際情報社	まんが日本昔話
18	大石 真	村上 勉	かさじぞう	1982	チャイルド本社	傑作愛蔵版にほんむかしばなし 9
19	山谷 泰子	大野 豊	かさじぞう	1983	ポプラ社	アニメファンタジー
20		赤坂 三好・団 春郎	かさじぞう	1983	創育	創育の名作絵本
21	はやし あきこ	すとう かつあき	かさじぞう	1984	学研	アニメカラー名作えほん
22	平田 昭吾	成田 マキホ	かさじぞう	1986	永岡書店	アニメ昔ばなしシリーズ
23	立原 えりか	サンリオアニメスタッフ	かさじぞう	1988	サンリオ	サンリオアニメランド 日本むかしばなし
24	今西 祐行	山岡 勝司	かさじぞう	1989	チャイルド本社	チャイルド絵本館 日本むかしばなし
25	松谷 みよ子	高見 八重子	つるのよめさま・かさじ ぞう・ごぼんのみしほし	1989	講談社	講談社のおはなし 絵本館 6
26	川内 彩友美		かさじぞう	1990	講談社	はじめてのまんが日本昔ばなし(7)
27	西本 鶏介	高橋 信也	かさこじぞう	1991	ポプラ社	アニメむかしむかし絵本
28	谷 真介	赤坂 三好	かさじぞう	1991	佼成出版社	十二月(年越のはなし)
29	中島 和子	倉石 琢也	かさじぞう	1991	ひかりのくに	ひかりのくに名作・昔話絵本
30	平田 昭吾(著)		かさじぞう	1993	ブティック社	よい子とママのアニメ絵本
31	福田 庄助		かさじぞう	1993	TBS・ブリタニカ	日本名作絵本 2
32	大内 曜子	青木 みのる	かさじぞう	1995	ひかりのくに	たんぽぽえほんシリーズ
33	織田 道代	木葉井 悦子	かさじぞう	1995	鈴木出版	おはなしシール絵本
34	早野 美智子	木村 光雄	かさじぞう	1995	小学館	おかちゃんめいさく
35	わらべ きみか(作)		かさじぞう	1995	ひさかたチャイルド	
36	織田 道代	木葉井 悦子	かさじぞう	1995	すずき出版	チャイルド絵本館 日本・世界の昔話-9
37	大石 真	村上 勉	かさじぞう	1995	チャイルド本社	おはなしだいすき
38			かさじぞう	1995	ひかりのくに	はじめてのおはなし絵本
39	間所 ひさこ	黒井 健	かさじぞう	1996	講談社	日本むかしばなしライブラリー
40	武鹿 悦子	本田 豊国	かさじぞう	1996	フレーベル館	日本昔話ライブラリー
41	武鹿 悦子	本多 豊国	かさじぞう	1996	フレーベル館	決定版 まんが日本昔ばなし 101
42	川内 彩友美		笠地蔵	1997	講談社	
43	松谷 みよ子	大沢 幸子	おむすびころころ・ かさじぞう	1997	講談社	かみしばいブッくん
44	川崎 大治(脚本)	二俣 英五郎	かさじぞう	1998	童心社	世界名作ファンタジー 45
45	平田 昭吾	成田 マキホ	かさこじぞう	1998	ポプラ社	はじめてのめいさくしかけえほん
46		あらかわ しずえ	かさじぞう	1999	学習研究社	日本昔ばなしアニメ絵本 13
47	佐々木 昇	まがみ ばん	かさじぞう	2000	永岡書店	くもんのはじめての名作おはなし 絵本
48		トムボーイ	かさじぞう	2000	くもん出版	みんなでようよう!日本の昔話Ⅱ
49			かさじぞう	2000	大創産業	子どもとよむ日本の昔ばなし
50	大石 真	村上 勉	かさじぞう	2003	チャイルド本社	わたしのえほん
51	おざわ としお むらた みちこ	しのざき みつお	かさじぞう	2005	くもん出版	ワンダー民話館
52	さくら ともこ	水野 おりん	かさじぞう	2005	PHP研究所	まんが日本むかばなし
53	松谷 みよ子	松永 慎郎	かさじぞう	2005	世界文化社	ぐりこえほん
54	川内 彩友美(編)		笠地蔵	2006	二見書房	松谷みよ子むかしむかし
55	小学館スクウェア(編集)	たかい ひろこ	かさじぞう	2006	江崎グリコ	はじめてふれるアニメ名作絵本
56	松谷 みよ子	黒井 健	かさじぞう	2006	童心社	スミセイおはなし広場シリーズ
57	川内 彩友美(編)		かさじぞう		住友生命保険相互会社	日本昔ばなしアニメ絵本
58			かさじぞう		大創産業	ダイソーえほんおはなしシリーズ

資料4 教科書参考資資料

編 著 者	教 材 名	教科図書名	出版年	出版社
いわさき きょうこ	かさこじぞう	小学3年生下	2007	教育出版
いわさき きょうこ	かさこじぞう	小学4年生下	2007	東京書籍
いわさき きょうこ	かさこじぞう	小学5年生下	2007	日本書籍
いわさき きょうこ	かさこじぞう	小学6年生下	2007	大阪図書

(研究紀要編集部、編集発行規程第5条に基づき、本原稿の査読を論文審査委員会に依頼し、本原稿を本誌に掲載可とする判定を受理する、2008年10月16日付)。